

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 5月 1日

事業所名 児童デイサービスまちまち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80	20	利用する人数や特性等を話し合い、室内の配置を変えるなど、配慮しています	
	2	職員の配置数は適切である	60	40	保育士、作業療法士、精神保健福祉士等専門性を持ったスタッフを配置しております	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100	0	パーテーションやスケジュール表などのツールを用いて構造化しています	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100	0	空気清浄機を取り付け、換気や消毒を行っています	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	60	40	定期的に会議を行っています	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80	20		評価表に基づく会議を実施し、業務改善に努めていきます
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0	ホームページにて評価を公開しています	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	100		現在行っていないので、外部評価も取り入れていきます
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	定期的に研修を行い、支援の向上に努めています	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100	0	契約時にアセスメントシートに記入していただいています	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	90	10	お子様に合わせたスケジュールを用意しています	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	90	10		丁寧な支援ができるよう、より具体的な支援内容に設定していきます
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100	0	SST活動を通して支援しています	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	毎月意見を出し合い話し合いをしています	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0	日々固定化しないように努めています	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100	0	子どもの様子や気になる点をスタッフ各々の意見を参考にし計画しています	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0		日々、丁寧な支援ができるよう、会議をし支援の内容を共有していきます
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100	0		日々、丁寧な支援ができるよう、会議をし支援の内容を共有していきます
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	個人の記録を毎日書いています	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100	0	相談支援からのモニタリング時に見直しをおこなっています	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0	担当者を決め、普段の様子をお伝えさせていただいています	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	40	60		相談支援を通して、情報共有できるようにしていきます
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	60	40		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	60	40		相談支援を通して、情報共有できるようにしていきます
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60	40	ズームでの支援に参加しています	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
者との連携	28	0	100		保育所の先生方との交流がもてるようにお話しする機会を設けていきます
	29	10	90		相談支援を通して、考えていきます
	30	100	0	連絡帳やLINE、送迎時に日々の支援の様子をお伝えしています	
	31	0	100		相談支援を通して、考えていきます
保護者への説明責任等	32	100	0	契約時に説明させていただいています	
	33	100	0	送迎時や訪問時に説明させていただいています。	
	34	90	10		必要に応じて、懇談を実施していきます
	35	90	10		コロナが落ち着いたら、保護者会を開催していきます
	36	100	0	すべての情報を管理者等に報告する対応を整備しています	
	37	40	60		会報等を発行し、デイでの様子をよりわかりやすくお伝えしていきます
	38	100	0	個人情報の記載された書類は、ロッカーに入れ施錠しています。	
	39	100	0	送迎時や訪問時にお話しさせていただいています	
40	10	90		見学会を実施していきます	
非常時等の対応	41	60	40	事業所のコロナ対策を文書でお伝えさせていただきました	
	42	60	40	年に一度訓練を実施しています	
	43	100	0	契約時にアセスメント用紙に記入いただいています	
	44	100	0	情報を共有し個別に対応しています	
	45	100	0		問題を共有できるよう努めていきます
	46	60	40	定期的に研修会に参加しています	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	40	60		身体拘束は基本的に行っていません

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。